

施策評価シート(平成30年度)

(基本施策の大綱) 1. 快適さを支える生活基盤の向上

(基本施策) (10) 歴史文化の継承・活用

(評価担当者)

生活文化部長 佐久間 利夫

基本施策が目指す姿

市民が、地域の歴史文化を学び、郷土に誇りを持っています。

関連する分野別計画

成果指標

	単位	現状値		実績値					目標値	
				H29	H30	R1	R2	R3		
1	国・県・市の指定等を受ける文化財の数	件	132	H27	133	135				135
2	歴史博物館の利用者数	人	11,561	H27	11,314	11,062				13,000
3										
4										
5										

市民アンケート調査

項目	現状値 [H27]	1次 [H30]	2次 [R2]	市民アンケートの考察
1 歴史や文化をいかしたまちづくりが行われている	重要度	0.81	0.75	歴史文化に対する市民の関心があまり高まっていない様子が見受けられるため、歴史博物館の取組や鈴鹿閑跡の調査の進捗状況などについて更なる広報を行うことも必要である。
	満足度	0.02	0.15	
2	重要度			
	満足度			
3	重要度			
	満足度			
4	重要度			
	満足度			
5	重要度			
	満足度			

総合評価

総合判定	左記の総合判定とした理由
B まずまず進んでいる	歴史博物館の活用と地域・学校での学習の展開では、企画展として、「学生がひもといいた亀山 亀山高校郷土史クラブ」や「幕末明治そのときの亀山」を開催したほか、学校に対して学習テーマごとにパッケージ化した資料を貸し出ししたり移動展示を行うなど、地域の歴史や文化を学ぶ機会を提供することができ、個別判定をAとしている。一方、文化財の保存・継承と活用では、天然記念物ネコギギの保全に関して本市と協定を締結する鈴鹿高等学校が野生生物保護功労者表彰の環境大臣賞を受賞されるなど、その活動が認められているところであるが、鈴鹿閑跡の調査については、学術調査は進めているものの、国史跡指定に向けては課題も残されていることから、総合判定をBとした。

反省点・課題

鈴鹿閑跡学術調査では、確認された遺構の連続性や古代道路の位置等、国史跡指定に向けて、一部不明瞭となっている専門的な価値について、今後、明らかにしていく必要がある。一方、歴史博物館の利用者数が、近年、減少傾向にあることから、より暮らしや学習に役立つ展示を行ったり、より学校との連携を強めるなど、郷土への誇りや愛着の醸成につながるよう取り組んでいく必要がある。さらには、これまでのような個々の文化財等の保存重視の考え方から、それらのパッケージ化を図るなど、より活用が進むような検討も必要である。

今後の展開方針

鈴鹿閑跡では、国史跡指定を目指して、今後も学術調査専門委員会からの指導・助言を受けて発掘調査等を行い、調査研究成果を積み重ねていく。一方、歴史博物館については、人びとの関心や生活に身近な切り口での展示を計画するとともに、学校との連携事業では、小学校を会場とした移動展示を行うなど、子どもたちが地元の歴史や文化を学ぶ機会づくりを進めていく。歴史文化に関しては、比較的高齢の方には関心を持たれることが多いが、それ以外の方の関心も高められるよう、文化財を活用したイベントの実施や様々な機会を捉えた広報啓発を行っていく。さらには、より文化財等を活用して発信ができるよう、日本遺産の登録に向けても取り組む。

(施策の方向に関する評価)

施策の方向		文化財の保存・継承と活用				
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】				【左記の活動により、施策は推進できているか】
A	活動	文化財を適切に保存するとともにその活用に努めた。特に、ネコギギ保護増殖事業について鈴鹿高校との連携により、飼育を実現し、繁殖に成功した。鈴鹿関跡の学術的な調査研究を進めるため、2回の委員会を開催した。文化財保存団体等の活動や次代の担い手育成を支援した。	評価	文化財を適切に保存するとともに、市民活動団体等との連携により、その活用を図ることができた。鈴鹿関跡委員会により、学術的な検討は進んだが、国史跡指定に向けては残された課題も多い。文化財の保存・活用に、幅広い市民活動団体等の参加が得られた。		
				順調に進んでいる		
関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額 / 決算額 [千円]	活動	成果
	17039	鈴鹿関跡学術調査事業	主	1,550 / 1,477	B	B
	19053	指定文化財維持管理費	標	9,032 / 8,707	A	A
	19054	歴史街道遺産活用事業	標	1,432 / 1,177	A	A
	19291	希少水生生物保護増殖事業	標	2,047 / 2,039	A	A
	19068	一般遺跡調査事業	標	8,040 / 7,238	A	A
	19119	一般事業(町並み保存費)	標	2,816 / 2,697	A	A
事業以外の取組	内容				活動	成果

施策の方向		歴史博物館の活用と地域・学校での学習の展開				
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】				【左記の活動により、施策は推進できているか】
A	活動	亀山高校郷土研究会のクラブ活動、亀山市の一番、明治150年幕末明治の亀山の歴史を掘り起こすため新たに史資料を調査分析しその成果を展示した。家分け史資料調査を継続し史料群の一つが終了した。学校での移動展示では関小学校を会場に、地域に関連した展示等を行うとともに、学校での学習と連携した出前授業やユニットの貸出等を進めた。	評価	常設展示や企画展示を通じて、新たな切り口での歴史研究が進められるとともに、研究成果を生かした歴史の発信や学習機会が提供できた。引き続き次の家分け史資料の調査を開始した。学習プログラムの中での歴史博物館と学校等との連携が充実した。		
				順調に進んでいる		
関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額 / 決算額 [千円]	活動	成果
	19072	企画展開催費	標	2,345 / 2,181	A	A
事業以外の取組	内容				活動	成果